

1 学校教育目標	
自ら学び 心豊かに たくましく 基本方針「生徒一人ひとりを大切にする教育の実現」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
(1) 生徒一人ひとりに 基礎基本を身につけさせる。 (2) 生徒一人ひとりの よさや可能性を引き出す。 (3) 生徒一人ひとりの 命と健康を守る。	成果 ○生徒の「あいさつ」や「生命を大切にする心」が評価された。 課題 ●学力向上が課題である。教員の授業力向上や授業改善を進めていく事が重要である。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	- 学校経営目標、方針 - 校務分掌組織 - 適所への適材配置 - 職員会議等の運営 - 予算の執行・決算、監査等	B	○校長講話や各保護者会、学校だより等を通して本校の教育目標や取組を伝えた。 ●校務分掌の人材配置について、さらに工夫をしていく。
	②研究・研修	- 研究組織、計画、実施 - 校内研修の推進 - 授業改善への取組 - 校外研修会への参加 - 人材育成	B	○学力向上パワーアッププランを作成し、学力・授業力向上の共通理解を進めた。 ●校内研修をより計画的に進めるとともに、各学調の分析と指導への反映を進める。
	③保健管理・安全管理	- 保健計画、安全計画 - 環境衛生の管理 - 健康観察、安全点検 - 緊急事態発生時の対応 - 危機管理マニュアルの作成・活用	A	○日々の健康・安全・衛生管理は適切に進めることができた。 ●危機管理マニュアルの周知徹底や教職員の危機管理意識をさらに高める。
	④情報管理・施設設備管理	- 個人情報の管理、保護 - 施設設備の管理と有効利用	B	○校内での個人情報を適切に管理できた。施設・設備破損について迅速に対応できた。 ●個人情報の取り扱いについて、校内取扱規定の改定を行い、更なる周知徹底を図る。
	⑤地域との連携・開かれた学校	- 学校情報の発信 - 学校公開の実施 - 学校評議員の活用 - 地域・校種間連携 - PTA活動の活性化	B	○朝の挨拶運動や緑化ボランティア・パトロール等、PTAと協力・連携して活動できた。 ●ホームページの更新の頻度をさらに多くしていく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	- 目指す子ども像の実現に向けた取組 - 教育課程の編成 - 一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保小中合同研修会や担当者同士の連携をスムーズに行う事ができた。 ●3つの部会ごとの打合せをもう少し設定できると良かった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	B	○各教職員が学校教育目標の実現に向けて基本方針に基づき教育活動を進めた。 ●授業時数の偏りがなるべく出ないように、テスト前を中心に調整していく。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○学力向上パワーアッププランを作成し、各学調の結果を分析して授業改善を行った。 ●各学調の結果と質問紙の内容との相関について詳しく分析し活用していく。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	A	○担任や副担任がローテーションで授業を行ったり、小学校で授業を行うなど、授業力の向上や小中連携を図った。 ●日頃のあいさつやゴミを拾う等、アンケートで生徒の意識低下が見られた。
	④特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 生徒会活動	B	○学校行事や生徒会活動を充実でき、生徒の前向きな変容が見られた。 ●統一した話し合い活動の形式を提案する。6組と連携が取れるものと難しいものについて担当と検討を重ねていく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	B	○各学年とも指導内容について主体的・問題解決的な内容になるよう工夫していた。 ●次年度への資料の引き継ぎを円滑にしていく。学年の実態を考慮して指導していく。
	⑥生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、生徒理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導を共通理解・共通行動・全校体制で行った。事後指導も対応できていた。 ●未然防止・経過観察・いじめ防止対策委員会の招集など、取組を見直す必要がある。
	⑦キャリア教育	- 組織的なキャリア教育 - 指導方法の工夫と改善 - 啓発的経験の充実 - 進路情報の収集、活用 - 職場体験活動	B	○体験的な学習を通して、進路への意識を高めた。進路だよりで情報提供を行った。 ●行事の見直し、2年生での客観的な学力の把握について検討を要する。
	⑧特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	B	○指導計画や支援計画は、本人の特性や保護者の意向を踏まえて作成・実行できた。 ●通常学級との連携の仕方をもう少し工夫していく必要がある。
	⑨学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○全体計画・活動計画に基づき、学校司書と連携しながら購入・紹介・貸出ができた。 ●学習活動を支援する活用を、各教科や教員に促していきたい。
	⑩情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - I C T機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○I C T機器の活用については、総合や体育などでの活用の実績があった。 ●研修などを通して活用できる実例を含めて紹介していく。情報モラルは、研修などを通して知識の均一化を図っていきたい。
	⑪人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	B	○各学年、人権作文や人権標語などを中心に人権感覚の涵養を図った。 ●人権のDVD・人権感覚育成プログラムの活用を学年・学級でさらに進めていきたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	PTAとの連携したあいさつ運動	委員会を中心にあいさつ運動を行い、生徒同士やPTAの方々との交流を通して、学校全体の雰囲気醸成を行っている。	B	○両中伝統のあいさつ運動を、生徒会の委員会を中心に取り組んだ。保護者の方々も輪番で参加してくださり、爽やかなあいさつで1日をスタートできた。 ●教員の担当を工夫しながら、より活性化したあいさつ運動にしていこう。
	ボランティア活動	緑化・清掃・配達ボランティアなど、奉仕活動に力を入れている。	B	○緑化ボランティアによって、本校の緑化環境は大変良くなっている。生徒・教員・保護者が協力し、充実した活動となった。 ●夏休みの清掃ボランティアは、高温注意報の為実施できなかった。ボランティア活動の精選や内容の工夫をしながら来年度につなげていく。
	両中スマホルールの制定と実践	独自のスマホルールを設定し、呼びかけを行うとともに、校区の小学校ともスマホルールで連携している。	B	○校区内の小学校も同じスマホルールを適用し、同一歩調でスマホの利用方法を指導している。 ●スマホのトラブルが数件発生し、スマホルールの継続的な指導の必要性や運用の工夫を今後もしていく事が大切である。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学校評議員の方々からは、全体的にあいさつが良いという評価をいただいた。これからもPTA・小学校と連携したあいさつ運動を進めて欲しいとの意見が出された。また、授業参観をしていただき、全学年とも静かに落ち着いて授業を受けているとのことのお言葉もいただいた。

学校評価を全体的に振り返ると、ほとんどの項目でBの「おおむね達成できている」と言える。学校教育目標・基本方針・重点目標を意識し、全職員で職務遂行した成果である。

生徒のアンケートからも、学校生活では多くの場面で目標を達成できたとの評価をしている。しかし、「発表をする場面で自分から進んで考えを述べる事」や「家庭学習に取り組む事」「ボランティアに自分から取り組む事」「自分からあいさつやゴミ拾いを地域で取り組む事」に苦手意識があるということが分かった。今後の課題として指導に活かしていきたい。

保護者の方々からのアンケートからは、学校運営・教育活動に対して多くの面で前向きな良い評価をいただいたが、生徒が「自ら学ぶ生徒に育っている」「子どもに学力をつけている」「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」「子どもの様子を学校に伝えている」などの項目で、3割近く当てはまらないという意見を頂戴した。学力向上・授業改善・幼保小中一貫教育を次年度の課題としたい。

6 次年度の改善策

- ①学力向上と授業改善をさらに進めるため、学力向上部会をより機能させていく。また国・県・市の学力学習状況調査と質問紙の分析を進め、その内容を授業や指導に結びつけていく。校内研修等を通して、生徒が「分かりやすく楽しい」授業づくりを進めていく。
- ②学校生活全体を通して、主体性や表現力を日常生活や教科で育成していく。
- ③三者面談や日頃の連絡の中で、丁寧に保護者の気持ちや意見を聞き取り、寄り添っていく事を全職員で徹底していく。